

## 第33回大会

中国・四国・九州地区

# 生涯教育実践研究交流会



- 期 日 平成26年5月17日(土)～18日(日)
- 会 場 福岡県立社会教育総合センター
- 主 催 福岡県教育委員会  
日本生涯教育学会九州支部
- 主 管 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会  
第33回大会実行委員会  
福岡県立社会教育総合センター

## 急激な社会変化の中では「前年並みは後退」です ～「攻め」と「発想の転換」を!!～

昭和46年に国の社会教育審議会が「急激な社会構造の変化に対処する社会教育の在り方について」を答申して40数年過ぎました。答申後の社会はさらに変化し続けています。本大会はまさにこの急激な変化と共に歩いてきました。

急激な社会変化は、急激であればあるほど施策も実践も「前年並みは後退」になります。第32回大会までに発表された909本の実践事例は各県の実行委員の皆さんの大変な御尽力で、常に社会の変化を見据えた先駆的、モデル的なものでした。

急激な社会構造の変化は、農村型社会を一挙に都市型社会に変え、交通・流通の革命を起こし、情報化・国際化を進展させ、少子高齢社会をもたらし、生涯学習の格差を助長してきました。人々の生活も、価値観も一変し、流動化、陳腐化、無境界化が進んでいます。それだけに節目の第30回大会で掲げた大会コンセプト「未来の必要」の精神は、以後の大会へと引き継がれ、問い続けられなければなりません。

第33回目の本大会も、各県の実行委員さんのお骨折りにより素晴らしい実践が集まりました。毎年のことながら感謝しています。特に、2日目の特別企画には、全国の家庭が、学校が、地域が抱える現代的課題に果敢に挑戦し、その実践の結果は全国的に評価が高い二人の若手実践家、佐賀県の谷口仁史さん、鳥根県の岩本悠さんをお迎えできたことを大変嬉しく思っています。二人の実践は決して「守り」ではなく「攻め」です。ピンチをチャンスに変える「発想の転換」が各所で見られます。

本大会は「言うは易く、行うは難し」を重視し「実践」にこだわってきました。

第33回大会を、参加者の皆さんの熱き「実践」の交流で盛り上げていただくことを期待しています。

代表世話人 森本 精造

## 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 第33回大会 実行委員

- |                                       |                               |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| 山本 稔(鳥取県)鳥取県教育委員会事務局家庭・地域教育課          | 三角 幸三(熊本県)熊本県宇城市教育委員会         |
| 原田 尚(鳥根県)鳥根県雲南市立加茂小学校                 | 中川 忠宣(大分県)国立大学法人 大分大学         |
| 渋谷 秀文(鳥根県)鳥根県教育委員会益田教育事務所             | 向 智章(大分県)大分県教育庁社会教育課社会教育班     |
| 吉岡 康行(広島県)広島県教育委員会生涯学習課               | 池本 要(宮崎県)NPO法人 家庭・青少年教育ネットワーク |
| 正留 律雄(広島県)広島県大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター | 竹内 一久(宮崎県)宮崎県教育委員会生涯学習課       |
| 福原 洋子(岡山県)岡山県教育庁人権教育課                 | 山下亜紀子(宮崎県)国立大学法人 宮崎大学         |
| 中吉浩一郎(岡山県)岡山市岡山っ子育成局子ども企画総務課          | 鹿倉 貢(鹿児島県)鹿児島県立青少年研修センター      |
| 赤田 博夫(山口県)山口県宇部市立鶴ノ島小学校               | 北之園千春(鹿児島県)かごしま県民大学中央センター     |
| 高木 義夫(高知県)NPO高知県生涯学習支援センター            | 鶴木 孝夫(鹿児島県)鹿児島県始良市教育委員会       |
| 和田 瑞穂(愛媛県)愛媛県松山市立河野小学校                | 大城喜江子(沖縄県)沖縄県元NPO法人なはまちづくりネット |
| 馬場祐次郎(徳島県)国立大学法人 徳島大学                 | 上田 哲子(福岡県)福岡県教育庁教育企画部社会教育課    |
| 関 弘紹(佐賀県)佐賀県文化・スポーツ部まなび課              | 中藺 宏(福岡県)福岡県立社会教育総合センター       |
| 林口 彰(佐賀県)(財)孔子の里                      | 大島 まな(福岡県)九州女子大学              |
| 紫園 来未(佐賀県)オフィス しおん                    | 古市 勝也(福岡県)九州共立大学              |
| 鴻上 哲也(佐賀県)佐賀県伊万里市立黒川小学校               | 正平 辰男(福岡県)純真短期大学              |
| 林田 一彦(長崎県)長崎県教育庁生涯学習課                 | 三浦清一郎(福岡県)月刊生涯学習通信「風の便り」編集長   |
| 武次 寛(長崎県)長崎県諫早市多良見公民館                 | 森本 精造(福岡県)NPO法人幼老共生まちづくり支援協会  |
| 池田 幸春(熊本県)熊本県教育庁教育総務局社会教育課            |                               |

# Time Schedule **1st day 5.17 Sat.**

9:30	10:15	10:45	12:30	13:00
受付	開会式	実践発表.1		受付
玄関ロビー	2F 講堂	第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室		昼食 玄関ロビー

13:30	16:15	16:30	17:00	17:30	20:00
実践発表.2	<b>特別報告</b> 「心の危機」を予防する ー医者に見えない教育問題、 教育者が気づいていない医学症状ー 報告者 三浦 清一郎 (2F 講堂) フリータイム		第33回大会交流会		
第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室	移動				



■日時：1日目の夜 17：30～ ■場所：2F 体育館

「実践研究交流会は、実践事例の発表がメインなのか、交流会がメインなのか？」と問われるくらい、毎年、毎年大盛況の交流会です。ちょっと緊張気味だった参加者の皆さんが、料理をはおばり、地酒を酌み交わして、「お国自慢」をし、「村おこし」の苦勞を話し合い、「人づくり」の楽しみを語り合います。その熱気に、人々の顔は真っ赤、会場は熱気ムンムン！今年も、全館貸し切りです。どうぞ心おきなく、お楽しみ下さい。

なお、せり市の売り上げは次年度の運営費の一部とさせていただきますので、御了承下さい。

# Time Schedule **2nd day 5.18 Sun.**

8:30	9:00	11:30	12:00
受付	<b>特別企画</b> 2つのミニ講演とインタビュー・ダイアログ 「発想を変える、ボーダーを超える」 1 若者支援のフロンティアに挑む 谷口 仁史(NPOスチューデント・サポート・フェイス代表理事) 2 過疎地の教育振興に挑む 岩本 悠(島根県海士町教育委員会 高校魅力化プロデューサー) 3 インタビュー・ダイアログ 二つの実践の哲学・原理・方法論を聞く 【コーディネーター】 三浦 清一郎(月刊生涯学習通信「風の便り」編集長)	総括 閉会式	昼食
玄関ロビー	2F 講堂	2F 講堂	



■日時：5月17日・18日 ■場所：1F 交流ホール

大会開催中、参加者の皆さんが携わられている「まちづくり」や「人づくり」のイベントのポスターを掲示しています。どうぞ、ご覧下さい。



# 第1会場●2F 第4研修室

■司 会/杉内 直也 島根県吉賀町教育委員会 派遣社会教育主事  
角 亮子 佐賀県立生涯学習センター 企画員

分科会の進め方

10:45~10:50

## 1 「通学合宿」が目指す自主・自律の生活習慣と地域の教育力ネットワーク 10:50~11:20

熊谷 直久(山口県宇部市) 宇部市鶴ノ島校区子ども委員会 会長

通学合宿は5泊6日で、子どもの生活の自律を目指す基本プログラムを継続し、過去10回、10年を重ねて来た。目的は、子どもの自律体験を通して、生活習慣を確立し、子ども同士、子どもと地域住民の相互交流を作り出すことである。また、通学合宿を地域で支えることで、地域の協力者を掘り起こし、住民の交流と地域の教育力を高めようとしている。そのため、子ども委員会、子ども会育成連絡協議会、地域活動連絡協議会の3者が連携して実行委員会を組織し、できるだけ多くの人々の協力が得られるよう工夫している。合宿を通して、子どもは変容し、自主・自律の態度が養成されている。

## 2 地域の教育力を補完し、自身の生涯学習力を維持する土曜講座 ～退職校長会の地域貢献～ 11:25~11:55

鶴木 孝夫(鹿児島県始良市) 始良市教育委員会 社会教育指導員

学校週5日制に伴う「土曜日の空白」を憂う地域は多い。旧始良町の退職校長会は、平成14年から「地域教育力」の補完に取り組んで来たが、合併後も同じ発想が新市の退職校長会に引き継がれ、教育行政との協働が実現している。開催は5月~12月の土曜日に全16回。会場は、各種社会教育施設はもとより、歴史民俗資料館から国立公園の海岸に至るまで、市内全域に広がる。指導の中心は子どもの体験活動を支援し、郷土意識の醸成に置く。校長職経験者の広い視野と学識を生かし、活動は、歴史、山学校、絵画、俳句、採集、工作など多岐に渡る。元校長の肝いりで、「土曜講座」の学社連携はたくましくして実現し、退職校長会が率先する地域貢献は、教育行政・社会教育施設の活性化は元より、会員自身の生涯学習と活力維持に貢献している。

## 3 社会教育は「民草」を育て、「民草」が地域を拓く ～社会教育が生んだ自主組織「草社の会」の志と実践～ 12:00~12:30

松本 英俊(長崎県) 長崎県社会教育支援「草社の会」 会長

「草」とは、「民草」を意味する。県の社会教育関係者及びOBの中から、社会教育の現状に危惧の念を抱くものが県内各地から集まり、会費制の自主組織として結成した。雑草のように地域教育力を再生・拡大することが趣旨である。活動は、県内各地を巡回する「移動フォーラム」(年1回)と会員研修会(年2回)を基本とし、情報収集と会員交流を円りながら各種の講座・講習会を企画・実施・支援している。また、公民館大会を初め、県内の各種社会教育関係事業に会員が積極的に参画し、指導・助言・実践発表・コーディネーター機能などを務めながら、会員の資質と活動の目的意識の向上を求めて1年日に入った。現在、NPO化に向けて準備中である。



# 第2会場 ● 2F 自由研修室

■司 会／眞鍋 幸一 愛媛県総合科学博物館 館長  
松井 淳 福岡県教育庁北九州教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

## 分科会の進め方

10:45~10:50

### 1 地域行事が「中学生ボランティア」を育て、「中学生ボランティア」が地域行事の「環」となる

10:50~11:20

宮地 朝男(佐賀県佐賀市) 佐賀市巨勢校区子ども会連絡協議会 会長

佐賀市の「子どもへのまなざし運動」の中で、「地域教育コーディネーター」には、学校地域連携を促進する様々な機能が期待されている。中学校区を担当するにあたって、中学生の地域参加の機会が少ないことに着目した。中学生の社会参加には、活動の場と役割と出番が不可欠である。出番づくりには、公民館や地域と連携し、生徒の地域参加には、学校の協力を得た。地域行事を洗い出し、生徒会はもちろん全校生徒に呼びかけ、活動計画を立案し、広報、引率、報告等の活動を行った。「中学生ボランティア」の活動は、「環」として住民や小学生児童を繋いだ。中学生の地域行事参加は、行事のあり方や雰囲気を変え、中学生自身を変え、住民の中学生評価を変えた。

### 2 大学公開講座を横断する自主学習組織「六一会」の挑戦

11:25~11:55

佐々木 隆(徳島県徳島市) 徳島大学大学開放実践センター同窓会「六一会」 会長

「六一会」は、昭和61年の大学の公開講座受講生による自主同窓会である。充足後四半世紀を経て、新たな方向性を探るため、従来に限定した諸活動を、外部に開き、社会貢献を目指した活動への転換を模索した。新企画の基本構想は、「地域課題を取り上げた講演会の実施」、「クラブ活動メニューの拡大と充実」、「社会的課題にアプローチする研修旅行」、「大学との協働」で、新規事業や重要課題についてはプロジェクト制を採って、会員に過剰負担がかからないよう配慮している。結果的に、外部からの参加者も増えて、会員数の維持に成功し、大学外に目を向ける準備体制が整いつつある。

### 3 「青春部」が挑む地域交流～「無理せず」、「楽しく」、「若者が動く」～

12:00~12:30

山口 智久(鳥取県日吉津村) 日吉津村「富吉青春部」 部長  
増本 唯史(鳥取県日吉津村) 日吉津村「富吉青春部」 副部長  
石川 裕資(鳥取県日吉津村) 日吉津村「富吉青春部」 会計

富吉自治会「青春部」の活性化は、村の行事の慰労会から始まった。行事参加はスポット参加で、何処の誰かも分からない。「さびしいじゃないか」とみんなが思い、「交流」の機会をみんなが求めていた。「青春部」は慰労会を提案し、「懇親と懇談」が定例化した。交流の機会に共鳴反応が起こり、呼びかけの輪が広がり、年齢の枠も吹き飛んだ。ルールは「無理せず」、「楽しく」、「若者が動く」、とした。夏祭りを初め、運動会、球技大会、芸能大会など村の行事には率先して参加し、関係者から高い評価を得て、メンバーも倍増した。最終目標は継続的な地域の活力を作り出すことである。活動歴3年。後継者の確保を含め、「青春部」の知恵の出どころである。



# 第3会場 ● 4F 視聴覚室

司 会 / 齋藤 貴雅 大分県教育庁社会教育課生涯学習推進班 社会教育主事  
松田 孝二 山口県山陽小野田市教育委員会社会教育課 派遣社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

## 1 親同士の絆を育む「ファシリテーター」養成事業 ～NPOがサポートする、2県にまたがった家庭教育支援～

10:50~11:20

三角 幸三(熊本県熊本市) NPO法人チェンジライフ熊本 理事

NPO法人チェンジライフ熊本は、保健・医療・福祉、社会教育、まちづくり、学術・文化・芸術・スポーツ、男女共同参画社会、子どもの健全育成など多分野にわたる活動を支援している。今回の発表は、熊本・長崎の両県に共通する家庭教育支援のための「ファシリテーター」を育成する事業である。熊本では「くまもと親の学び」と呼び、長崎では「ながさきファミリープログラム」と呼ばれる。事業を所管する行政部局は、熊本が県教委、長崎は子ども政策局である。ファシリテーターに期待される機能は、ネット上に公開している親の相互交流を目的とするプログラムを各地に展開して、親同士の交流を促進し、保護者の孤立を防止することである。熊本では100名を超える人材が登録され、長崎でも全市町村でファシリテーターが養成され、関連プログラムの受講者の拡大に成功している。

## 2 自他の子育てを振り返り、親の「気付き」を促す参加型学習講座 「親プロ」の全町展開

11:25~11:55

米田 珠美(広島県府中町) 府中町教育委員会 社会教育委員  
幅野 得恵(広島県府中町) 府中町教育委員会 社会教育課 主任

一方通行で、うけたまわり型の家庭教育支援事業では、親の意識や態度を変えることは難しい。その反省から広島県は、参加型学習法を取り入れた「『親の力』をまなびあう学習プログラム」(通称親プロ)を開発した。「親プロ」を採用した府中町では、5名のコーディネーターと71名のファシリテーターを養成して、町内全域で「親プロ」講座を展開している。開催場所は、保育園、幼稚園、子育て支援センター、小学校、公民館、子育てサークルなど多岐に渡る。目的は、参加型の学習を通して、自他の子育てを振り返り、親の「気付き」を促すことにある。府中町独自の教材も開発して、100分~120分の「親プロ」講座を、平成25年度は49回開催。受講者1,048人に達した。

## 3 「はやめ南人情ネットワーク」が創出した認知症見守りの「大牟田方式」 ～地域再生大賞に輝く20年～

12:00~12:30

汐待 律子(福岡県大牟田市) 大牟田市駛馬南校区社会福祉協議会 会長

活動のはじまりは、平成6年、社会福祉協議会の発議で、高齢化率の高かった駛馬南校区で始まった。公民館を中心施設として、各団体に呼びかけ、コミュニティの居場所を作り、世代間の交流を促進することを目的に活動が続けられてきた。平成16年には、正式に「はやめ南人情ネットワーク」の名称を冠して、各種団体のチームワークを駆使した認知症患者を見守る地域ネットワークとして活動が定着した。しかし、認知症の徘徊範囲は、当然校区外にも及ぶ。そこで、行政側に協力を要請して、やがて全市的な活動に拡大した。協力メンバーには、警察は元より、各種交通機関、郵便局、JA、消防署、老人会、地域介護施設などが参加して「徘徊模擬訓練」まで行うようになっていく。地域の活動主体は、民生委員、社協、公民館、学校などである。近年、この活動は、第4回地域再生大賞を受賞し、認知症見守りの大牟田方式とも呼ばれるようになっていく。



# 第4会場 ● 4F 大研修室

■司 会/原田 尚 島根県雲南市立加茂小学校 主幹教諭  
杉山 陽子 佐賀県立生涯学習センター 企画員

分科会の進め方

10:45~10:50

## 1 楽しいまちづくり講座「大原維新」 ～参加型学習のワークショップの導入による地域コミュニケーションの活性化～ 10:50~11:20

夏目 洋子(福岡県福岡市) 福岡市大原公民館 主事

地域活動は一部役員だけで決定され、住民からは「やらされている」という声が聞こえた。このマンネリ化を打破するため、「まちづくり応援隊」を講師に招いて、参加型学習の「ワークショップ」を導入した。第1回は「ここが気になる大原」、第2回は「こんな街に住みたい、大原」、第3回は「大原起動計画」を立てようということで、ついに「フラワータウンプロジェクト」とそれに付随する活動が発足した。協議と活動結果の報告書は、公民館が作成して全戸に配布している。この過程で、新しい人のつながりが生まれ、校区内のコミュニケーション・ルートを開発でき、「たて・よこ」の人間関係から多様な意見が出るようになった。次の課題は、人材の発掘とコミュニティ・デビューの舞台設定、そのためには更なる魅力的な事業の開発である。

## 2 サロンづくりからコミュニティ・ビジネスへの挑戦 11:25~11:55

藤田 直子(長崎県川棚町) みんなでワハハ 代表

平成24年、県の「女性力でながさを活性化プロジェクトチャレンジ事業」に採択され、活動を開始。50代の女性が10名集まり「ちいさな親切・ちいさなお世話」をモットーに肯伸びをせず可能な範囲で週3回開催するサロン「井戸端みんなでワハハ」を9月に開設。平成25年度は、同じ事業のステップアップ事業に採択された。自由な発想でインフォーマルサービスを行い、地域の高齢者や女性の笑顔の集まる居場所となっている。目標はコミュニティ・ビジネスの確立。活動産物からオリジナル商品の開発をし、販売で収益をあげている。事業参加は女性の自信を育み、苦手としていたビジネスの手法も取り入れ、社会進出の可能性を広げている。

## 3 地域と学校の「互恵関係」を育む学校支援地域本部事業 12:00~12:30

中村 謙太郎(熊本県八代市) 八代市立第四中学校区学校支援地域本部地域教育協議会 地域教育コーディネーター

八代市の学校支援モデルを構築することを目標としてスタートした校長発想の事業である。当初は市行政の協力は得られなかったが、地域からは校区内のボランティア団体のほとんどが加盟する総合社会教育推進協議会が学校支援ボランティアとして登録してくれた。また、事業の進行過程で、校区公民館の支援も得て、コーディネーター2名は事務室に常駐して、地域と学校の連携を進めた。支援対象は、中学校1校、小学校1校である。本事業は、地域資源を活用して学校の要望に応えるだけでなく、コーディネーター自らが支援計画を立案し、子どもたちが地域行事に参加し、合わせてイベントの設営準備や地域清掃を行なうなど、学校と地域が「互恵」の関係を持てるよう工夫を凝らした。子どもたちは地域になじみ、地域は学校とともに子どもを育てようという意識が向上し、学校と地域の協力関係は理想の形に近づいたのである。



# 第1会場●2F 第4研修室

■司 会／草野裕美子 熊本県生涯学習推進センター 社会教育主事  
吉岡 康行 広島県教育委員会事務局教育部生涯学習課 主任社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

1 「笑わせたいわ笑学校」の基本理念と社会発信のための地域実践  
～「話し方教室」から「笑いを基点とした人間関係の創造」へ～ 13:35~14:05

マックビーン 光子(大分県大分市) 笑わせたいわ笑学校 事務局

平成24年に「話し方教室」の卒業生が上記「笑学校」を設立した。活動の大目標は、「笑い」を基点とし、無縁社会を突破する人間関係の創造である。中目標・小目標は、活動を通して、「元気になること・元気にすること」、「話し方研修の続行」、「会員発表による社会発信」、「講師になるための独自教育実習」である。笑学校では、「会員の研修」と「学びの成果を地域活動に還元」することを同時平行的に進めることを目的としているので、活動の大半は一般公開にして、学習機会を提供し、人々の参加を呼びかけている。それゆえ、定例的に、年3回の「公開発表会」、年1回の「招聘講師による勉強会」、「元気になるワークショップ」などを開催している。これらの準備過程こそが会員相互の研修であり、「会員講師」の養成課程であり、公開する活動は、笑学校が基本理念とする「笑い」・「感動」・「学び」の社会発信である。

2 プールが育んだ地域の伝統・人々の絆  
～「はやぶさプール祭り」44年の軌跡～ 14:10~14:40

西村 昭二(鳥取県八頭町) 八頭町隼地区公民館 館長

隼地区には50mの公認プールがある。プールを活用した児童の体力向上は、学校はもちろん地域の教育目標となり、水泳大会での輝かしい実績も積み上げて来た。プールは地域のレクリエーションの場となり、やがて「祭り広場」の機能を果たすようになった。毎年お盆には、隼地区公民館が主催する地域総出のプール祭りが開催される。実行委員会も地域総出の手づくり、予算の拠出も地域総出である。お盆に帰省する人々と地域を守る人々の絆を繋いで既に44年もの歳月が流れた。4年後には小学校が統合されて、隼小学校は消滅する。プール祭りは50周年を迎えることができるか、地域に突きつけられた課題への挑戦である。

ティータイム 14:40~15:05

3 「幻」の淡水魚「アカザ」が町の自然を守る  
～「アカザ」を守ることで川を守り、川を守る活動で子どもたちが育ち、彼らはやがて未来のふるさとを守る～ 15:05~15:35

武貞 誉裕(福岡県添田町) アカザを守る会 代表

添田町には幻の淡水魚と呼ばれる「アカザ」が生息している。清流にしか住めないアカザは今では「絶滅危惧種」に指定されるまでに減少している。平成8年から河川の淡水魚調査を続けてきたが、本格的に「アカザを守る会」を結成したのは、平成24年である。活動を始めてすぐ分かることであるが、アカザを守ることは、水質を守ることであり、ふるさとの川を守ることである。それゆえ、町の河川の魚調査を行い、「添田町お魚マップ」を作成する傍ら、河川のゴミを拾い、川遊びや観察会を企画して子どもたちを川に触れさせることに力を入れた。未来のふるさととは子どもたちが守る。その子どもたちも自然に触れなければ自然の豊かさは分からない。「アカザを守る会」は、町行政と連携して、アカザを守りながら、青少年を育成し、青少年を育てながら、自然を守るというように、魚を起点とした地域活性化運動を展開している。

4 行政サービス機能を代替し、住民自らが地域課題の実働組織となる  
～中山間地域の自立への挑戦～ 15:40~16:10

中原 英樹(山口県長門市) NPO法人ゆうゆうグリーン俵山 理事長

名湯の町俵山は、豊かな歴史と自然資源を有しながら、その地理的状況から少子高齢社会が生まれ出す日本の最先端課題と向き合わざるを得ない。交通弱者、自立困難な高齢者、地域の雇用能力の貧困など、従来の行政依存では、もはや地域も、住民の暮らしも成り立って行かない。それゆえ、平成21年、「自らのまちは、自らの手で」をモットーに住民自身による自衛の活動を開始した。地域再生を目標としたNPOを立ち上げ、従来の行政サービスの中から福祉、教育、交通などの事業を次々と受託し、施設の指定管理、配食、地域交通の運営などを手がけている。住民で構成するNPOは近隣都市部に対して1100年の歴史を持つ温泉や自然資源の豊かさを発信しながら、地域課題解決のための実働組織として住民の自助・共助のネットワークを築き、新しい産業の創出に取り組んでいる。



# 第2会場●2F 自由研修室

■司 会/矢川 豊彦 長崎県教育庁生涯学習課 係長  
猪本 満昭 福岡県教育庁京築教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

1 「南輝子どもステーション」~どの子ども輝ける居場所を目指す~ 13:35~14:05

古谷 義子(岡山県岡山市) NPO法人タップ 代表

夢中になれば子どもは輝く。認められれば、意欲は高まる。「南輝子どもステーション」の目標は、放課後の「輝ける居場所」を創ることである。2006年の開設。学区実行委員会が岡山市から受託している「放課後子ども教室」にも積極的に取り組んでいる。11年には、活動に共感する企業が社宅を無償提供。小学生から高校生まで100名を超える子どもが利用登録しているが、毎日の常連は校区内の小学生。放課後の子どもたちには、「保育機能」と「教育機能」を共に提供し、宿題支援からけん玉、絵手紙、ダンス、時にはキャンプやボランティアまで各種のメニューで、子どもたちが夢中になれる時間を作り出すことに尽力している。

2 学校が送り出す土曜授業の「地域体験活動」、子どもを通して学校が仕掛けた地域活性化戦略 14:10~14:40

中野 晃(熊本県阿蘇市) 阿蘇市立内牧小学校 校長

子どもが動けば地域も動く。学校が「地域づくり」と結びつけた「ひとつづくり」を経営の基盤に置けば、地域の協力と活力が学校に向く。それが「子宝」の風土である。内牧小は土曜授業を地域体験と位置づけ、地域の人と自然と文化資源を教材として、校区内14地区に児童を送り出した。お願いは、「できることを、できることから」であるが、虎舞の復活、史跡巡り、町探検、各種の昔遊び、山登山など、地域は総出で子どもを迎えてくれる。子どもは体験と交流を通してふるさとの人と自然と文化を体感する。大人は、子どもの訪問に活力を得て、地域を見直し、地域の伝統文化や人間交流にも新しい動きが出始めている。

ティータイム 14:40~15:05

3 親の学びと家族の絆づくり~参加体験型家庭教育支援~ 15:05~15:35

藤崎 路子(宮崎県) 宮崎県教育委員会 家庭教育サポーター

「ドロップイン」は「立ち寄り」の意味で、センターは「親と子のたまり場」の機能の創造を目的とし、「リフレッシュ、相互支援、学習、遊びと体験」の提供を目指している。  
本事業は、県教委から、3か年の約束で、「親子いきいき家庭教育支援事業」を受託し、センターが有する教育機能を生かし、ワークショップを多用した参加体験型の支援講座を開設した。対象者は、将来親となる学生から幼児期の子を持つ親とした。会場には、子育て支援センターは元より、学校と連携し、中学校、高等学校の現場を活用した。子育て中の親のネットワークが形成され、「親になる」ことについて深く考える機会を得た生徒たちの中には、子育て支援センターでボランティア活動を始めるという成果も見られている。

4 古代史跡を巡るキッズ・アドベンチャー ~少年自然の家が現代っ子につぎつけた真夏の挑戦~ 15:40~16:10

中本 祐二(鳥取県琴浦町) 船上山少年自然の家 指導主事

子どもたちは、リヤカーを引いて、真夏の道を60km歩く。日程は5泊6日。行く手には郷土が発掘した日本屈指の古代の史跡がある。伯耆古代の丘、上淀廃寺跡、むきばんだ史跡などである。歴史を学びながら、炎天下を町から町へ移動する。泊まる場所は毎日異なり、その日の目標は決められている。怠れば辿り着けない。彼らを繋ぐのは、自分たちが力を合わせて引いたリヤカーとテント生活が育む友情である。このプログラムは、少年自然の家が現代っ子に突きつけた冒険と修行の挑戦状である。忘れ難い夏を歩き切って、挑戦に応え得た少年たちは、友情も、自律も、耐性も、判断力も一気に成長する。



# 第3会場 ● 4F 視聴覚室

■司 会 / 土井 淳 熊本県教育庁教育総務局社会教育課 社会教育主事  
松田 雄三 福岡県教育庁筑豊教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

1 協働のまちづくりと男女共同参画のリーダー養成  
~協働の確立、ネットワークの形成、各地に育ったリーダーの活躍~ 13:35~14:05

金折美津子(山口県山口市) やまぐちネットワークエコー 事務局長

益田 徳子(山口県山口市) やまぐちネットワークエコー 副代表

本会は、「やまぐち女性カレッジ」の修了生を中心に平成元年に設立。以来、男女共同参画の推進を基軸として活動を続けてきたが、男性会員の参加も得て、事業の柱を協働のまちづくりと男女共同参画の2本だて、3部会構成とした。力点は、リーダーの養成と関係者間のネットワークの形成に置き、第1部会は「女性学講座」、第2部会は「企画力・実践力ステップアップ講座」、第3部会は「生涯学習ネットワーク研究会」としている。それぞれの事業は、会費収入に合わせて、山口県との協働事業、(公財)山口県きらめき財団・(公財)山口県人づくり財団等の助成を得て展開してきた。成果は、市民-会員-行政間のネットワークの形成に成功し、各種の「協働」が実現し、各地に育った地域リーダーが様々な分野で活躍を始め、力を発揮するようになった。

2 木製玩具を通じた子育て支援ネットワークづくり  
~企業の社会貢献活動とNPO機能の融合~ 14:10~14:40

土屋 佳子(沖縄県浦添市) 株式会社オフィスハート 代表

本発表は、幼少期の健全な遊びを提供するため、木製玩具を媒介として、株式会社、NPO法人、NPO団体それぞれの特性を生かし実現した子育て支援事業である。出発点は、個人企業「オフィスハート」の活動とその社会貢献事業のミックス・融合として開始した「NPO沖縄グッド・トイ委員会(現在はNPOマチルダおもちゃ協会)」の「出張おもちゃ広場」である。この事業は、子どもに良いおもちゃと触れ合う機会を提供するプログラムで、「手づくりおもちゃ教室」、「おもちゃと遊びに関する親子講座」、「木育推進講座」などを通して、地域文化を生かした子育て支援を展開した。3年半で、1,500人を越える保育関係者、親子におもちゃの大切さを伝えることができ、2013年には、活動拠点として「子育て応援ハウス(Casamachilda Toy&friend)」を開所すると同時に、「オフィスハート」を株式法人化し、月300名弱の親子が訪れている。

ティータイム 14:40~15:05

3 大学生による地域参画・地域交流が育む自助・共助のネットワーク  
~大分大学高等教育開発センター学習ボランティアグループ「WITH」のまちづくり実践~ 15:05~15:35

梶原 里穂(大分県大分市) 大分大学高等教育開発センター 学習ボランティア・グループ「WITH」

宇野 優希(大分県大分市) 大分大学高等教育開発センター 学習ボランティア・グループ「WITH」

山下 露姫(大分県大分市) 大分大学高等教育開発センター 学習ボランティア・グループ「WITH」

結成3年目のグループである。学生と地域にはつながりが無い。知識と実践もつながっていない。「WITH」には、「地域とともに」・「仲間とともに」の二つの意味を込めている。まずは、学問と実践を結ぶ活動を求めて、地域に出て、地域の人を知るためのインタビューから始めた。学内では毎週定例のミーティングを行い、地域では毎月朝の清掃活動・だんご汁づくり等の既存事業に参加すると同時に、「WITH」が提案した浴衣の着付教室、茶話会、焼き芋工作教室、昔の遊び教室、地域住民との座談会などを企画・協働してきた。連携対象は、老人会、子ども会、既存のサロン活動などである。小さいながら地道に地域活動に参加し、賛同者の輪を広げながら、地域福祉の原点、自助・共助のネットワークを生み出しつつある。

4 公民館が紡いだ「目的縁」の10年  
~住民による住民のための事業展開で、地域は力を蓄え、人々の縁は深まった~ 15:40~16:10

竹谷 強(島根県松江市) 松江市古志原公民館 館長

古志原地区は急速に都市化したため、地縁関係が薄く、高齢化は他地区と同様、急速に進行した。人々の絆と福祉を充実させる地域力は、課題の解決に参加する住民相互の交流の中からしか生み出せないと考え、公民館プログラムが繋ぐ人間関係を「目的縁」と名付けた。公民館は、住民から広くボランティアを募り、各種の補助金を活用して、地域住民による地域のための事業を提案してそのコーディネーター役を果たした。放課後子ども教室も、災害時要援護者支援組織も立ち上げ、異世代交流を目指した公民館プログラムには、高齢者はもとより、中・高生や親子と一緒に参加するようになった。高校との連携も実現し、高校生ボランティアが地域活動に参加するようになり、小学校校庭の芝生化等地域活動には参加者の大幅増加が見られた。



# 第4会場 ● 4F 大研修室

司 会 / 草野 芳人 鹿児島県出水市教育委員会生涯学習課 参事兼生涯学習係長  
久保田啓子 山口県長門市教育委員会生涯学習スポーツ振興課 社会教育指導員

分科会の進め方 13:30~13:35

1 学校図書館を校内一素敵な場所に  
～「学校図書館デザインサポーター」の図書館活性化戦略～ 13:35~14:05

筑紫 紀子(熊本県熊本市) 熊本県学校図書館デザインサポート事業 学校図書館サポーター  
本事業は平成24年度に始まる。対象は県内の小・中学校・特別支援学校・高等学校(熊本市を除く)。県の教育委員会は、窓口を社会教育課とし、学校からの申請を受けて、派遣日程を調整する。大目的は読書活動の推進、中目的は親しまれ役に立つ学校図書館づくり、最終目的は学校図書館の活性化である。「学校図書館デザインサポーター」は希望する学校に出向き、そのニーズに応じて、図書の設定・廃棄、図書館のレイアウト、ディスプレイ、ボランティアを導入した運営法等を提案・助言する。図書館の魅力が増せば、関係者の読書活動推進についての意識も、期待も、意欲も高まり、児童生徒の読書量の増大に繋がっている。

2 PTA「おやじ部」による教育力創造の挑戦  
～子どもが楽しむ!親も楽しむ!親子で楽しむ!～ 14:10~14:40

伊藤 憲一(愛媛県西条市) 西条市立小松小学校PTA 副会長(前おやじ部 部長)  
PTAで活躍する役員は女性ばかりなので、父親の参加を要請する声が強くなり、平成16年に「おやじ部」を結成し、自主活動を通して父親相互のネットワークを構築することを目的とした。活動目標は、四季を通したイベントを立ち上げ、子どもを巻き込み、親子ふれあいの機会を拡充し、父親の企画力・実行力・活動の姿などを見せることである。現在の部員数は28名で、年間スケジュールの中に、親子の「石鎚登山」、「しまなみウォーク」、「夜市」、「通学合宿」、「秋季運動会」、「もちつき大会」等を企画・展開している。結果は上々で、子どもとの交流機会は格段に充実し、父親のがんばる姿を見せる結果にもなったと自負している。また、活動を通して、父親のPTA参加やネットワークが広がり、学校や他の団体との協力関係も築くことができた。活動財源は、この種の活動を奨励する市の補助金を基礎に夜市などで自ら稼ぎだしている。

ティータイム 14:40~15:05

3 「体験」と「食」と「語り」で地域の子どもの育てる  
～保育所発「ふるさとの養育意識」の変革～ 15:05~15:35

河野 利文(鳥根県益田市) 益田市保育研究会 ふるさと教育研究委員会 委員長  
益田市保育研究会は市内29の保育所の職員が所属する組織である。組織の主要目的を、職員の研修と保育の質の向上に置き、ふるさと資源を活用した「体験」と「食」と「語り」で子ども・家庭・地域を変えることを目的にしている。平成21年度には「ふるさと教育委員会」を立ち上げ、保育プログラムの重点事項を設定した。「体験」では、海、山、川を取り入れた保育所共通の体感プログラムを、「食」では、地産地消の伝統献立・統一献立を、「語り」では、民話を発掘して、子どもの聞く力・保育者の語る力の向上に傾注している。また、地域で子どもを育てることができるよう「保小連携」、「生産者との連携」、「企業や民間機関との連携」を模索し、地域全体の「養育」についての意識変革を最終目標としている。

4 学校図書館の手づくりリニューアルの奇跡  
～激変した読書意欲のBefore&After～ 15:40~16:10

峰 文子(佐賀県伊万里市) 伊万里市立黒川小学校 教頭  
伊万里市黒川町は子どもの読書運動に力を傾注し、「家読の郷」と呼ばれている。その拠点が黒川小学校の図書館である。しかし、図書館自体は青色蒼然として、読書意欲を喚起する魅力に欠けるところがあった。学校図書館手づくりリニューアル・プロジェクトはそこから始まる。学校と育友会は地域に呼びかけ、協力を依頼した。手づくりリニューアルのアイディアは、「3千円から3万円でできる学校図書館の手づくり改修法」(\*)を参考にした。書棚を整備し、椅子のカバーを替え、アレンジは多岐に渡った。手づくりリニューアルのプロセスは、人々の関心を引き出し、子どもの意欲を高め、貸し出し数は前年比2.35倍に増加し、「家読」の実施率は1.4ポイント向上した。佐賀県の読書チャレンジ運動優秀賞も受賞することができ、「子どもの読み語りグループ」や「子ども司書」の導入につながっている。  
(\*図書館づくりと子どもの本の研究所発行)

1st day  
5.17 Sat.

## 第33回大会 特別報告

■時間 / 16:30 ~ 17:00 ■会場 / 2F 講堂

テーマ●「心の危機」を予防する  
— 医者に見えない教育問題、

教育者が気づいていない医学症状—  
三浦清一郎

2nd day  
5.18 Sun.

## 第33回大会 特別企画

■時間 / 9:00 ~ 11:30 ■会場 / 2F 講堂

2つのミニ講演とインタビュー・ダイアローグ

### 「発想を変える、ボーダーを超える」

若者の混迷と地方の過疎化は日本社会が当面する重要課題です。今回はこの二つの課題に挑戦して、驚異的な実績を挙げて来た若い先駆的実践者をお招きしました。それぞれの活動の成果を検証し、事業を成功に導いた原理と方法論をお聞きする企画です。

われわれは、学校や社会への適応に失敗して苦悩する多くの若者やその保護者の存在を知っています。しかも、学校や行政が提供する相談サービスや社会復帰プログラムがほとんど機能していないことも知っています。佐賀県を拠点として活動する「スチューデント・サポート・フェイス」は、従来発想を根本からひっくり返して、ひきこもりやニートの社会復帰に素晴らしい成果を挙げて来ました。

一方、過疎地における学校の消滅は、子どもや住民の生活を激変させ、地域の活力を一気に低下させます。特に、学校の消滅が「離島」で起こった場合には、島民の生活に激震をもたらします。島根県隠岐の島の「島前高校魅力化プロジェクト」は、廃校寸前の高等学校を見事に復活させ、地域に活力をもたらした希有の事例です。過疎対策も、過疎地における教育問題も、既存の行政による縦割り分業や政治発想で解決できなかったことは、限界集落が1万を超えたというこの数十年の失敗の歴史が何よりの証拠です。それゆえ、離島における高等学校の存続は、あらゆる面で、現代日本の分業システムや常識の「境界」を超えなければならなかった事業です。

佐賀の事例も、島根の事例も、個別の事業原理や方法論を超えて、われわれに、常識を覆して「発想を変える」こと、既存の仕組みに囚われずに「ボーダーを超える」ことを呼びかけているのです。

- 
- 1 若者支援のフロンティアに挑む 谷口 仁史 (40分)
  - 2 過疎地の教育振興に挑む 岩本 悠 (40分)
  - 3 インタビュー・ダイアローグ  
二つの実践の哲学・原理・方法論を聞く (休憩を含んで70分)  
コーディネーター 三浦清一郎

## <登壇者プロフィール>

### ●谷口 仁史 (NPOスチューデント・サポート・フェイス(SSF) 代表理事)



インターネットを検索すると、様々な谷口仁史像が現れる。現行の相談事業やカウンセリングの「待ち」の姿勢を全面転換し、若者支援のフロンティアを開拓した。不登校、引きこもり、非行等さまざまな不適応問題に当面する青少年を対象に「訪問型支援」に取り組んできた。具体的には、20代の若者を家庭教師として派遣し、個別クライアントにあわせた直接的な教育・相談支援を行っている。既存の相談事業や学校のカウンセリングプログラムなどと比較して、子どもの「改善率」・「社会復帰率」は圧倒的に高い。実績を評価され、佐賀県行政、厚労省行政との協働を開始し、相談・指導をニートの就労問題にまで広げて取り組み、大いに成果を上げている。子ども若者育成・子育て支援功労者表彰「内閣総理大臣表彰」を受賞。

事業の理念、方法論上の中核発想、クライアントとのコミュニケーションの方法、会員の研修、保護者からの反応の分析などと同時に、なぜSSFが提唱する「訪問型支援」が日本社会の主流にならないのかを聞きたい。

### ●岩本 悠 (島根県海士町教育委員会 高校魅力化プロデューサー)



学生時代からアジア・アフリカを歩き、地域開発の現場を知っている。「流学日記」(文芸社/幻冬舎)を出版し、その印税でアフガニスタンに学校を作った(「こうして僕はアフガニスタンに学校を作った」、河出書房新社)。ソニーに勤務し、人材育成、組織開発、社会貢献事業に従事。2006年島根県隠岐郡海士町に移住。以後、「島前高校魅力化プロジェクト」に取り組み、プロデューサーとして過疎地の教育振興に挑戦した。全国から意志ある「脱藩生」を募集する「島流学」制度を立ち上げ、学校も地域も活性化することに成功している。プロジェクトの精神は「脱藩」に象徴されるとおり、既存の境界線(ポーター)を越えることである。市町村は元より、県域も、学校教育も、社会教育も、関係機関の専門も、経済、労働、教育の分業の縄張りも越えなければ、過疎地の振興構想は実現できない。プロジェクトは、第1回プラチナ大賞・総務大臣賞を受賞した。日本の過疎、1方を越えた「限界集落」に、教育は何ができるのかを聞きたい。

## <コーディネーター>

### ●三浦清一郎 (月刊生涯学習通信「風の便り」編集長)



米国西ヴァージニア大学助教授、国立社会教育研修所、文部省を経て福岡教育大学教授、この間フルブライト交換教授としてシラキューズ大学、北カロライナ州立大学客員教授。平成3年福原学園常務理事、九州女子大学・九州共立大学副学長。平成12年三浦清一郎事務所を設立。月刊生涯学習通信「風の便り」編集長として教育・社会評論を展開する傍ら晩学者を宣言し、「市民の参画と地域活力の創造」(学文社)、「子育て支援の方法と少年教育の原点」(同)、「The Active Senior—これからの人生」(同)、「しつけの回復 教えることの復権」(同)、「変わってしまった女と変わりたくない男」(同)、「安楽余生やめますか、それとも人間止めますか」(同)、「自分のためのボランティア」(同)、「熟年の自分史」(同)、「未来の必要 生涯教育立国論」(編著、同)「明日の学童保育」(共著、日本地域社会研究所)など毎年1冊の出版ペースで研究成果を世に問うている。

# 第32回大会開催報告

- 大会期日 2013年5月18日(土)~19日(日)
- 場 所 福岡県立社会教育総合センター

実践研究発表者  
司会者及び  
県別参加者

中国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
山口	6	2	13
広島	1	1	16
島根	4	2	14
鳥取	4	0	15
岡山	3	0	8
計	18	5	66

中国・四国・九州地区以外			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
東京	1	0	6
大阪	0	0	6
愛知	0	0	1
静岡	0	0	1
宮城	0	0	1
北海道	0	0	1
計	1	0	16

九州地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
福岡	4	3	147
佐賀	3	2	28
熊本	2	2	5
大分	3	1	28
宮崎	2	0	0
長崎	1	1	37
鹿児島	3	1	6
沖縄	0	0	16
計	18	10	267

四国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
徳島	0	0	0
愛媛	1	1	9
計	1	1	9

	発表者数	司会者数	参加者数	実行委・登壇者数	総参加者数
総計	38	16	358	24	436

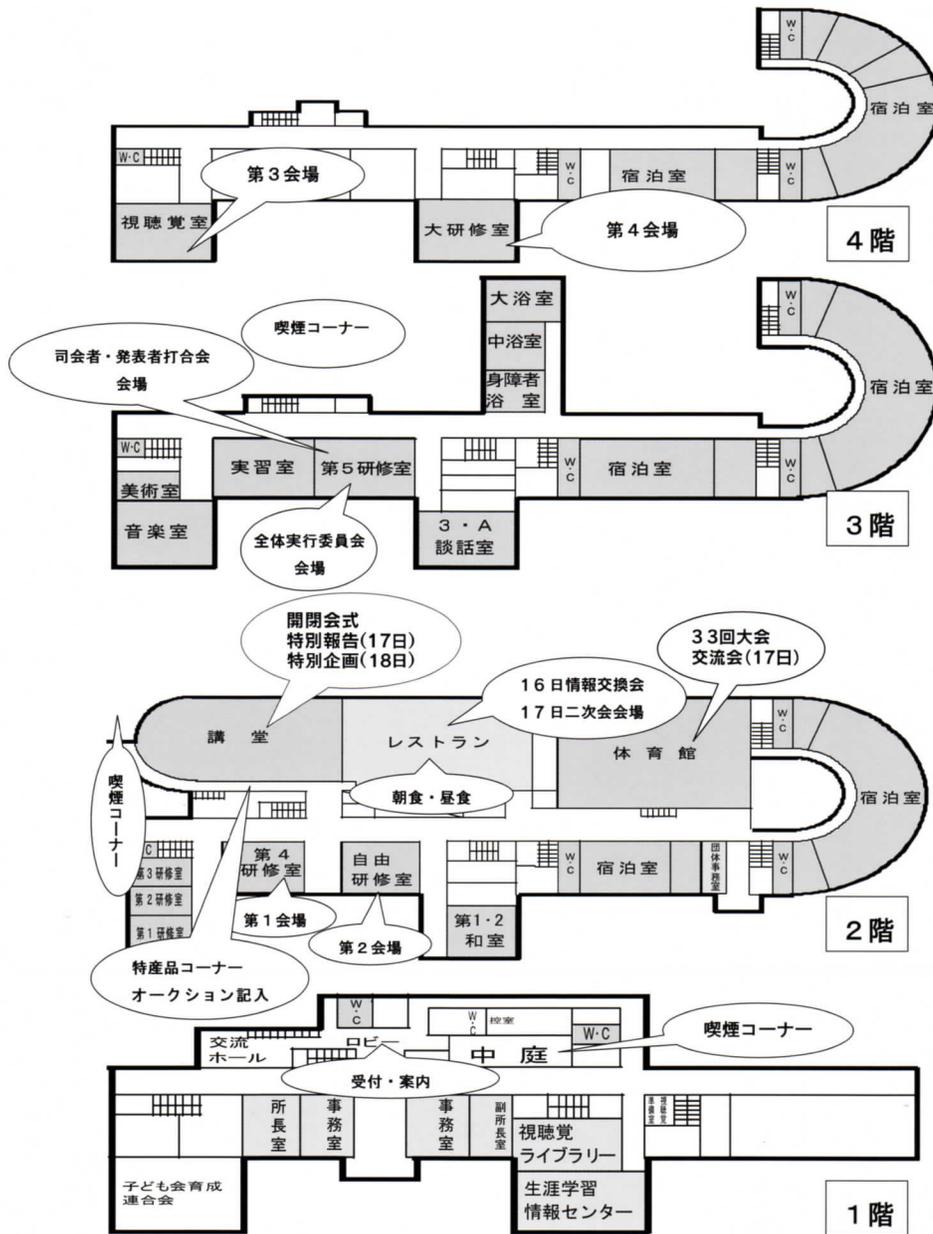
**特産品、稀少品ありがとうございました**  
 第32回大会も皆様のご協力により、  
 たくさんの特産品が集まりました。ありがとうございました。

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名	特産品名
1	木原 忠	福岡県	宇美町	宇美さん燻
2	谷 忠広	福岡県	放送大学	寒北斗(かんぼくと)
3	近藤 貴紀	福岡県	勾金小学校	ぼたやま、香春岳
4	福住弘、佐藤祐佳、卜蔵久子	鳥取県	米子市生涯学習課	銘菓 十八万石
5	木下光子、曹近孝子	鳥取県	輪津地区子どもふれあい活動実行委員会	焼酎 平左工衛門
6	田中 崇詞	鳥取県	米子市役所まちづくり推進室	山陰特産板わかめ(5セット有)
7	田中 崇詞	鳥取県	米子市役所まちづくり推進室	どんぐり焼酎 25度(720ml)
8	田中 崇詞	鳥取県	米子市役所まちづくり推進室	どんぐりうどん&どんぐり醤油
9	田中 崇詞	鳥取県	米子市役所まちづくり推進室	どんぐりうどん&あじみつちゃん・しいたけみつちゃん
10	田中 崇詞	鳥取県	米子市役所まちづくり推進室	妖怪まんじゅう
11	田中 崇詞	鳥取県	米子市役所まちづくり推進室	松葉がにせんべい&山陰限定ふりかけ
12	瀬沼 克彰	東京都	桜美林大学	瀬沼先生 著書セット
13	西原町立西原南小学校PTA	沖縄県	西原町立西原南小学校PTA	沖縄のあれこれ
14	西原町立西原南小学校PTA会長 金城 豊	沖縄県	西原町立西原南小学校	あわもり
15	大城 誠一	沖縄県	西原町子ども会育成連絡協議会	泡盛 金箔入り泡盛
16	赤田 博夫	山口県	山口ボロボロの会	地酒
17	徳田 正英	沖縄県	西原町PTA連合会	サーター アンダギー
18	西原町地域ぐるみ学力推進委員会	沖縄県	西原町地域ぐるみ学力推進委員会	琉球もろもろ餅&島風(あわもり)
19	玉城 有	沖縄県	西原町地域ぐるみ学力推進委員会	沖縄黒糖菓子セット(3つ)
20	中吉 浩一郎	岡山県	岡山っ子育成局こども企画総務課	岡大きびだんご
21	見守り隊一同	広島県	廿日市市大野子ども体験活動ボランティア活動支援センター	もみじまんじゅう
22	見守り隊一同	広島県	廿日市市大野子ども体験活動ボランティア活動支援センター	桐葉菓
23	美咲 美佐子	岡山県	NPO法人 岡山市子どもセンター	きび田楽
24	三浦 清一郎	福岡県	「風の便り」編集長	ハンガリーワイン
25	杉原 潔	広島県	ボランティアネット ゆうゆう	レモンケーキ
26		広島県	ボランティアネット ゆうゆう	産直レモンラーメン
27	仙波 安特	愛媛県	NPO法人 えひめ子どもチャレンジ支援機構	今治(イマバリ)バリイさんタオル&ハンカチセット
28	生田 信樹	鳥取県	鳥取県教育委員会西部教育局	鬼太郎どらやき
29	樋田 京子	福岡県	太宰府市教育委員会	せんべい
30	森本 精造	福岡県	実践交流会代表	飯塚市特産品テトラエッグ
31	興鍋 幸一	愛媛県	愛媛県教育委員会教育総務課	伝統造りの酒 寿喜心(すきごころ)
32	香月 利都子	福岡県	事務局	湖月堂の栗まんじゅう
33	古市 勝也	福岡県	九州共立大学	焼酎
34	福木 孝夫	鹿児島県	始良市教育委員会	黒糖焼酎(徳之島)さらめきの島
35	遠藤 敏朗	愛媛県	松山市立堀江小学校	ハタタ栗タルト
36	大下 修一	鳥取県	伯備町	有機栽培コシヒカリ 5kg
37	大下 修一	鳥取県	伯備町	有機栽培コシヒカリ 5kg
38	大島 まな	福岡県	九州女子大学	博多うまいもんセット
39	関 弘紹	佐賀県		小城ようかん
40	谷本 理佐	福岡県	福岡県教育庁社会教育課	ガトーフェスタ ハラダのラスク
41	荻園 来未	佐賀県	オフィスしおん	辛子めんたい風味 めんべい
42	糸永 祐一	福岡県	久留米市北野総合支所文化スポーツ課	久留米黒糖本舗のクロボー 詰め合わせ

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名	特産品名
43	海老原 郁子	鹿児島県	海老原音楽グループ	焼酎 黒伊佐
44	山田 葉子	沖縄県	西原町教育委員会	スクガラスワタガラス
45	伊禮 美恵子	沖縄県	西原町教育委員会	すくからす ワタガラス (沖縄珍味)
46		沖縄県	西原町教育委員会	黒糖、さんびん茶
47	藤井 義則	広島県	河島地区コミュニティをすすめる会	生もみじまんじゅう
48	比嘉 清美	沖縄県	西原町子ども会育成連絡協議会	塩ちんすこうと黒砂糖のセット
49	神谷 輝美	沖縄県	西原町子ども会育成連絡協議会	塩ちんすこう
50	福原 洋子	岡山県	岡山県教育庁人権教育課	ままかりの酢漬け、ままかりの桜葉漬け
51	山本 稔	鳥取県	鳥取県教育委員会西部教育局	梨ワイン
52	秋山 千潮	佐賀県	佐賀市立勸興公民館	竹伝説 佐賀の焼酎セット
53	佐藤 美代子、佐島 儀子	山口県	田布施維新大学	田布施の米焼酎
54	西岡 信利	佐賀県	伊万里市二里公民館	すみやま(純米酒)
55	平城 信明	福岡県	北九州市戸畑区役所	北九州商工会議所「食」の認定ブランド くらがね堅パン(10枚入×5袋)
56	高野名 雄介	北海道	札幌市生涯学習センター	じゃがポックル&花畑牧場とかりんとどう
57	野尻 絹子	熊本県	熊本県生涯学習推進センター	くまモンクッキー
58	太田黒 保宏	熊本県	熊本県生涯学習推進センター	くまモンの太平燕(タイビーエン)
59	山川 美幸	熊本県	熊本県生涯学習推進センター	くまモンクッキー
60	上村 修治	熊本県	熊本県生涯学習推進センター	くまモン黒糖クッキー
61	草野 裕美子	熊本県	熊本県生涯学習推進センター	くまモンボールペン&シール
62	橋本 博志	長崎県	長崎県教育庁生涯学習課	長崎名物 皿うどんセット
63	松本 英俊	長崎県	無所属	酒
64	松瀬 直善	長崎県	コックスファーム	平戸コックス芋焼酎
65	縄田 早苗	大分県	大分県立社会教育総合センター	抹茶カフェオレ
66	財津 敬二郎	大分県	大分県生涯教育学会	焼酎 百助(ももすけ)
67	鶴野、藤葉、津川	広島県	府中市教育委員会	安芸銘菓 桐葉菓
68	一本木 実香	広島県	広島県生涯学習センター	天光堂(広島市中区千田町)の榎(あき)もみじ
69	内藤 妙子	福岡県	福岡県教育庁社会教育課	ざつま 小鶴
70	馬場 利浩	長崎県	長崎県教育庁生涯学習課	龍馬が愛した珈琲
71	湖上 卓也	長崎県	長崎県教育庁生涯学習課	ザボテンシヨコラとミニ風
72	木原 茂	福岡県	福岡県教育庁社会教育課	純米大吟醸 寒山水
73	浜崎 潤子、山本 一穂	島根県	島根県教育庁社会教育課・義務教育課	島根ワイン「平成の大遷宮」
74	中村 和夫	山口県	GOPPOスズなクラブ	羽衣もなか
75	ふりはた ともひろ	長崎県	長崎県教育庁生涯学習課	長崎名産 そのぎ茶 黒糖
76	堀 輝広	長崎県	長崎県教育庁生涯学習課	長崎 びわ茶
77	末岡 美由紀	山口県	光紙之居	伊藤公せんべい
78	伊勢 みゆき	宮城県	NPO法人 まなびのたねネットワーク	宮城県産 かきのくんせい塩のりかき本
79	林田 一彦	長崎県	長崎県教育庁生涯学習課	島内限定芋焼酎 五島灘
80	伊勢 みゆき	宮城県	NPO法人 まなびのたねネットワーク	岩手県陸前高田のおつまみ昆布
81	波塚、佐藤、弓削	東京都	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター	国立西洋美術館 ラファエロ 図録
82	郷野 和代	長崎県	長崎県こども未来課	長崎 福砂屋 カステラ
83	福野、津川、藤葉	広島県	府中市教育委員会	ドラえもんどこでももみじ れもんの味
84	藤田 泰文	広島県	ふれあいHEARTS	純米 吟醸酒 黄茂鶴(カモツル)
85	坂口 大輔	福岡県	大牟田市地域コミュニティ推進課	草木まんじゅう
86	杉本 亮之	広島県	広島県教育委員会生涯学習課	今年こそ カーブ!
87	江藤 智穂	大分県	笑わせ大和実学校	スギエ米
88	手嶋 仁美	鳥取県	北栄町教育委員会生涯学習課	名探偵コナングッズ
89	安田 隆人	岡山県	岡山県教育委員会生涯学習課	元祖 岡山 とりそば太田
90	藤田 千勢	山口県	山口ボロボロの会	長州黒かしの ケーキとお醤油タルト
91	畠田 正彦	大分県	大分大学	iichiko BAR Kabosu Riquier
92	久芳 全陽	岡山県	岡山県教育委員会生涯学習課	日本酒 山田錦
93	重松、中尾、平田、佐藤	愛媛県	愛媛県教育委員会生涯学習課・桑原小学校	ボンジュール 道後焼酎
94	榎本 徹	大分県	大分県立社会教育総合センター	ザビエル
95	矢川 豊彦	長崎県	長崎県教育委員会生涯学習課	龍馬風
96	三宅 千恵	岡山県	岡山教育事務所生涯学習課	倉敷小町 SANZEN(日本酒)
97		広島県	広島県教育委員会	広島名産 桐葉菓(とうようか)
98	戸田 美之	広島県	広島県教育委員会	瀬戸内レモンケーキ・モスコ セット
99	トウフマン岩井	島根県	(有)真砂	真砂のとうふ
100	中島 清香	福岡県	柳川市立東宮永小学校	のりネー餅(ず)
101	久芳 全陽	岡山県	岡山県教育委員会生涯学習課	日本酒 西條鶴
102	NPO法人 こどもサポートにつこたこ	大分県		昭和のかき餅
103	石澤 邦子	沖縄県	西原町立坂田小学校保護者	揚げ菓子 キャンディ セット
104	重松 孝士	福岡県		産山ようかん
105	矢野 やす子	鹿児島県	伊崎田保育園	あくまき
106	上野 敦子	山口県	井関にここクラブ	山口の地酒 貴陽
107	連見 直子	山口県	国立山口徳地青少年自然の家	源氏巻
108	赤田 博夫	山口県	宇部市立鶴ノ島小学校	萩の夏みかん
109	赤田 博夫	山口県	宇部市立鶴ノ島小学校	巖流島 龍虎セット
110	中村 竜也、由利江	広島県	そば一す同好会&ゆめな情報局	尾道いか天&レモングッズ
111	田中 晶子	大阪府	大阪狭山キジムナーの会	大阪狭山市マスコットキャラクター さやりん せんべい
112	重岡利栄子	福岡県	まちづくりコーディネィ	芦屋釜もなか
113	今西 幸蔵	大阪府	神戸学院大学	堺の和菓子
114	松本久美子	大分県	矢野大和事務所	別府温泉入浴剤 大板タオル 亀川扇子
115		福岡県	筑豊教育事務所	寒北斗(かんぼくと)
116	西岡 信利	佐賀県	伊万里市二里公民館	純米酒 すみやま
117	坂石 俊弘	福岡県	田川郡今津小学校	寒北斗(かんぼくと)
118	棚田 祥子	長崎県	五島市立崎山小学校	五島麦
119	木原 茂	福岡県	社会教育課	純米大吟醸 寒山水
120	重松、中尾、平田、佐藤	愛媛県	愛媛県生涯学習課・桑原小学校	愛媛のまじめなお酒です
121	社会教育室	福岡県	福岡教育事務所	白糸酒蔵の純米!!
122	社会教育室	福岡県	福岡教育事務所	白糸酒蔵の喜多屋
123		福岡県	社会教育課	おつまみセット

なお、紙面の都合上、敬称と職名は省略させて頂きました。万一、誤字や脱字、または、記入漏れがありましたときは、御容赦下さいますようお願いいたします。

# 会場案内図



## 「ふくおか社会教育ネットワーク」

にて本大会の発表事例は、掲載されます！



その他、福岡県内の社会教育に関するイベント・施設・HPリンクが見られる充実したホームページです。

ホームページアドレス

<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp>

ぜひ一度ご覧ください！

## 福岡県立社会教育総合センター

住所 〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2  
 TEL 092-947-3512 FAX 092-947-8029